



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (10月9日～11日)

1. 外国為替取引所での為替に関する商業工業鉱山大臣の発言 (9日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

ガザンファリー鉱工業・商業大臣は、産業界との会議の場で、「外国為替取引所は為替価格および外貨供給の要である。外国為替取引所での為替は下落していくと見られ、かつ輸入品プライオリティのうち7番目および8番目の物資の輸入についても、徐々に外貨が割り当てられていくであろう」と述べた。昨今のリアル貨の暴落によって、製造業者らは問題を抱えており、製品価格の値上げが認められなければ、為替による巨額のロスに耐えられず生産活動を停止する恐れがある。

2. イラン中央銀行による債権発行 (10日付イラン・ニュース紙)

イラン中央銀行は、市場安定化のために100兆リヤル(約82億ドル)分の債権を2012年3月20日までに発行するとIRIB(イラン・イスラーム共和国放送)が報じた。第一フェーズとして、うち4分の1に相当する25兆リヤル分を10月13日に発行する。

3. 補助金合理化の一時中断 (9日付イラン・ニュース紙、ケイハーン紙の引用)

10月7日、国会では、食料品や燃料への補助金の合理化のさらなる実施を一時中断する決議案が上程され、出席した240名の国会議員のうち、179名が賛成票を投じた(過半数を超えたため可決)。リアル通貨の下落により経済が疲弊していることを受けての措置である。

4. 2012年の国内総生産 (10日付ケイハーン・インターナショナル紙)

IMFが発表した*World Economic Outlook*の最新版によると、2012年におけるイランの国内総生産(GDP)はマイナス0.9%になるとし、翌2013年はプラス0.8%成長と予測している。なおインフレ率は、2012年は25.2%、2013年は21.8%と予測している。

5. 自動車生産台数 (11日付テヘラン・タイムズ紙)

イラン暦シャフラーヴァル月(8月22日～9月21日)におけるイランの自動車生産台数は53,027台となったとISNA通信(イラン学生通信)が報じた。ガザンファリー鉱工業・商業大臣によると、昨年[イラン暦1390年(2011年3月21日～2012年3月19日)]には約160万台の自動車が生産され、うち55,000台が輸出されている。

6. イラニアン・ライト原油の値上げ（11日付イラン・デイリー紙）

ロイター通信によれば、イランは11月積みのアジア向けイラニアン・ライト原油 OSP (Official Selling Price) を90セント値上げし、オマーンノドバイ価格+2.85ドルにする。イラニアン・ヘビーについては5セント値上げし、フォローザンについては75セント値上げした。

7. トルコ向けイラン産天然ガス供給の再開（11日付テヘラン・タイムズ紙）

パイプラインによるトルコ向けイラン産天然ガス供給が1週間以内に再開すると、トルコのユルドゥズ・エネルギー天然資源大臣が述べている。10月8日に起きたトルコ東部でのパイプライン爆破による供給減は、ロシアからの供給増（露ガスプロムによると60%増の日量4,800万立法メートルを供給）によって賄ったことも明らかにした。

8. 鉱工業・商業省次官の発言（9日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

鉱工業・商業省次官は、「我が国は多数の経済指標において低位置にある。例えば、国際競争力では、イランは世界第69位であり、中東地域では第11位となっている。これは、国際的な制約により外国技術の入手および外国製品の輸入に困難が生じているためである」と発言した。

9. 外務省次官の発言（9日付ケイハーン・インターナショナル紙）

外務省のアラーグチ次官は、米主導の制裁によるイランの原油輸出への影響を否定し、「原油は高い需要がある商品であり、特に、アジア地域の中国、インド、韓国、日本やその他の国のアジア地域の顧客に求められている」と述べた。